

# 下水道 浸水対策計画 2022



令和4年3月



東京都下水道局

## 「下水道浸水対策計画 2022」の策定に当たって

雨水を速やかに排除し、浸水から街を守ることは、下水道の重要な役割の一つです。高度に都市化が進展し、市街化が進んだ東京都区部では、道路や地面に降った雨水が地中にしみ込みにくくなっており、雨水の大部分が下水道に流入しています。

これまで下水道局では、早期に浸水被害を軽減するため、被害の状況などを踏まえながら地区を重点化して対策に取り組んできており、2022（令和4）年3月末には、重点地区の約8割が事業完了もしくは事業中となるなど、次の段階を見据えることが必要となっています。また近年、集中豪雨の頻発や台風の大型化などにより全国各地で浸水被害が多発している状況にあることや、気候変動の影響により降雨量が増加していくことも予想されており、更なる対策の強化が求められています。

浸水対策は、大規模な下水道幹線や貯留池、ポンプ所を整備することとなりますが、大都市である東京では、事業用地の確保が困難なことなどにより事業着手までに時間を要することや、電気やガス、地下鉄などの埋設物が輻輳する地下における難易度の高い工事となることなどから事業完了までに長期間を要します。

このような状況の中、これまで以上に長期的な視点で戦略的に浸水対策を推進していく必要があることから、15年間を計画期間とする「下水道浸水対策計画 2022」を策定しました。

本計画では、目標整備水準のレベルアップや、事前防災の観点を取り入れた新たな重点地区の選定、更なるソフト対策の充実について定めるなど、これまでの計画から一歩進んだものとなっています。

東京の下水道は、都民の皆様のご協力や先人たちの知恵、努力の積み重ねにより整備が進み、現代の生活や都市活動を支えています。これからの下水道整備は東京の今を支えるだけでなく、未来への投資として将来世代の豊かな生活や旺盛な都市活動の基盤となるものです。

下水道局では、今後とも職員が一丸となって切れ目なく着実に浸水対策を推進し、都民の安全・安心を確保するとともに、成長と成熟が両立した未来の東京を支える使命を果たしてまいります。

2022（令和4）年3月

東京都下水道局長

神山 守

# 目次

第1章 安全・安心な都市の実現に向けて	1
第2章 浸水対策の現状と課題	2
1 浸水対策における下水道の役割	2
2 東京都における浸水対策の計画	3
2-1 東京都における総合的な治水対策のあり方について（61 答申）	3
2-2 東京都豪雨対策基本方針	4
2-3 東京都下水道事業 経営計画	5
3 下水道整備による浸水対策の実施状況	6
4 これまでの下水道整備による効果	9
5 近年の降雨と浸水被害の状況	11
5-1 豪雨の頻発化	11
5-2 近年の浸水被害の発生状況	14
6 気候変動とその影響	17
6-1 気温上昇	17
6-2 気温上昇による降雨の変化	19
7 これまでの下水道整備による能力検証	21
7-1 能力検証の考え方	21
7-2 流出解析シミュレーションによる能力検証結果	23
第3章 今後の浸水対策	25
1 目標整備水準	25
2 重点地区の選定方法	26

<b>第4章</b>	<b>新たな重点地区の選定</b>	<b>28</b>
1	計画期間	28
2	新たな重点地区	29
<b>第5章</b>	<b>ソフト対策の充実</b>	<b>32</b>
1	浸水対策のハード対策・ソフト対策	32
2	浸水対策の役割分担	33
3	ソフト対策の進め方	34
4	ソフト対策の3つの視点	35
4-1	視点1：減災対策の拡充	35
4-2	視点2：流域治水の実現	36
4-3	視点3：デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進	37
5	ソフト対策の3つの取組分野	38
5-1	取組分野1：下水道施設の維持管理の充実	38
5-2	取組分野2：浸水対策事業の円滑化	41
5-3	取組分野3：浸水リスクや浸水対策情報の認知度向上	44
<b>第6章</b>	<b>施設整備手法</b>	<b>46</b>
1	75ミリ施設整備の考え方	46
1-1	下水道幹線・主要枝線の整備	46
1-2	雨水貯留施設の整備	47
2	効果的な施設整備	48
2-1	段階的施設整備	48
2-2	関係する主体と連携した浸水対策	48
2-3	スポット対策	50
3	気候変動の影響等への対応	51

